横浜市立和泉小学校　学校便り
令和８年１０月３０日

つながれ和泉っ子
～人と社会と未来の自分～

和泉



11月号

https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/izu

練習は本番のように

校長　荒海　透

日曜日に順延された運動会、さらに雨で中断となってしまった後のプログラムを実施した水曜日の運動会では、子どもたちに対しまして温かなご声援をいただき、本当にありがとうございました。また、地域の皆様におかれましては、運動会当日だけでなく、練習期間中にマイクや音楽の音量の面でご迷惑をおかけしました。お詫びと共に、ご理解とご協力に改めて感謝申し上げます。

10月に入り、9月とは打って変わってさわやかな青空が続き、運動会の練習は順調に進んでいましたが、直前になっての雨模様。今回は運動会実施の可否を前日に判断させていただくこととなりました。この判断に至るまでには職員間で話し合い、様々な状況を鑑みながら結論を出しました。保護者の皆様にもご予定の変更を考えていただくなどご迷惑をおかけしたことと思いますが、「子どもたちが持てる力を存分に発揮できる場を用意したい」という思いには代えられませんでした。運動会当日、更なる雨の影響がありましたが、力の限りに競技や演技に取り組む姿を見て、運動会を無事に終えることができて本当によかったと思っています。これまでご家庭においても体調管理や励ましの言葉をいただくなどご協力をいただきありがとうございました。

運動会練習期間中の朝会では「練習は本番のように、本番は練習のように」という話をしました。練習や本番に臨む上での心の持ち方について表現した言葉ですが、年に一度の運動会が学校生活の中で一番響くタイミングだと思います。日曜日の開会式でもこの話を少ししましたが、子どもたちの中にも浸透しているように感じました。実際に練習の様子を見守る中で、先生方から「いつも本番のつもりで、力を出し切ろう。」といった声かけを耳にすることが何度もありました。そこには「本番さえ何とかなればよい」という刹那的な考えではなく、練習の過程を大切にし、その中で成長を実感できる子どもたちになってほしいという先生方の思いを感じることができました。

運動会まであと3日に迫った全体練習のことです。本番と同じように開閉会式や応援練習、ラジオ体操などに取り組みました。この内容はそのちょうど1週間前に行われた1回目の全体練習とほぼ同じ内容です。その時はそれぞれの完成度がまだ低く、「このままで本番を無事にむかえられるのだろうか。」という思いになりました。しかし、おそらく同じ思いに至った先生方や子どもたちの心にスイッチが入り、そこからの10日間はまさしく「練習は本番のように」と変わったのです。その結果、2回目となった全体練習は、気持ちの入った素晴らしい和泉っ子へと変化していました。校舎内のあちこちから「運動会の歌」が聞こえるなど、運動会が子どもたちのものになっていったことを実感しました。子どもたちの成長は順調ではありません。しかし、ゴールを示し、そこに至るまでの過程を大切にすることで確実に成長することを感じることができました。気が付けばもう11月です。この貴重な経験を学年や学級、そして自分へと戻し、素敵な和泉っ子とともに、成長を実感できる3月へと進んでほしいと思います。